

# 平和記念だより 88

2023年7月

◆編集・発行/高松市市民政策局人権啓発課 高松市平和記念館  
◆連絡先/高松市松島町一丁目15番1号 たかまつミライエ5階  
〒760-0068 TEL(087)833-2211 FAX(087)833-2244

## 平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭

令和5年5月13日(土)、たかまつミライエ1階多目的室において、「平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭」を開催しました。

第一部「平和を語るつどい」は、「高松市平和を願う市民団体協議会語り部部会」の長尾昭雄<sup>てるお</sup>さんによる講演、「広島での原爆体験」です。原爆投下により倒壊した建物に押しつぶされ大けがをした長尾さん。避難の途中で目にした川に浮かぶ何百人もの遺体、入院した病院の劣悪な状況など、その内容は想像を絶するものでした。長尾さんは、戦争がいかに悲惨か、平和がいかに大切か、一人でも多くの人に伝えたいという強い思いから、ご自分の被爆体験を語っています。

第二部「憲法記念平和映画祭」では、黒崎博さん監督・脚本、柳楽優弥さん、有村架純さん、三浦春馬さん出演の「太陽の子」を上映しました。日本の原爆開発を背景に、時代に翻弄されながら全力で駆け抜けた三人の若者の姿を描いた物語です。葛藤を抱えながらも、自分たちの未来のためだと信じて原爆開発を進める若き研究者の姿に胸が痛みます。

ご多忙の中、ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。



長尾昭雄さんの講演



会場の様子

### 平和を語るつどい

#### ・憲法記念平和映画祭に参加して…

■「私たちは微力ですが無力ではない」の言葉が胸に響きました。■お話は聞きやすく分かりやすく、いかに戦争がひどいものであったかがよく伝わってきた。■私も4歳のとき終戦を迎えましたが、いろいろと心に残っています。これまでは話すこともしませんでした。孫たちに話してみたいと思います。■「太陽の子」の上映、ありがとうございました。多くの人に観てほしいです。■今ある家族の幸せがかけがえのないものだと思えた。子どもたちにも平和について日々話していきたい。

私は、昼間、農家の麦刈りの手伝いに行き、疲れてぐっすり眠っていた。空襲警報が発令され、父は勤務先へ向かい、残った家族は経専、工芸学校の前を歩いて西へ逃げた。振り返るとすごい音がして自宅に焼夷弾が落ちるのが見えた。私は、妹、弟の手を引いて、郷東川橋方面をめざし、家族で約束していた愛国飛行場へと急いだ。あくる朝、家族全員が落ち合い、ほっとした。しばらくして自宅に帰った。自宅の防空壕の様子を見て、「ここにいたら死んでいただろう」と思った。中で蒸し焼きになっていたジャガイモなどの食料を取り出し食べた。

## 証言者プロフィール

■当時 女学校1年生

■住所 宮脇町

■家族 7人

父母、子ども5人

■家業 父は官立高松  
経済専門学校教授

「あの日わたしは 高松空襲～当時を伝える証言者の声～」(高松空襲を子どもたちに伝える会)証言映像より編集



平和記念館映像学習室において、次のとおり平和映画を上映します(無料)。

### 7月上旬の上映 「戸祭恭子さんが語る戦争」(60分)

日時▶ ～7月5日、「高松空襲展」において常時上映

解説▶ 「語り部」部会に所属し、これまでも各所で講演会講師を務めてきた戸祭恭子さん。戸祭さんが語る高松空襲体験談を新たに収録し編集した映像。当時、高等女学校3年生だった戸祭さんが、家族とともに空襲の炎から逃げながら強く思った「私は生きていたい」の言葉が聞く人の心に刺さる。制作は「8.15 戦争体験を語りつぐ集い実行委員会」。

### 7月・8月の上映 「飛べ!ダコタ」(109分)

日時▶ 7月8日～8月27日の土・日・祝日、午後2時～

解説▶ 昭和21年、終戦からわずか5か月後、英国空軍要人機「ダコタ」が佐渡島の海岸に不時着した。島民は、半年前まで敵国であったイギリス人に対し、様々な思いを胸に抱く。しかし、やがて国境を越えた友情と絆を育み、「ダコタ」を大空へと飛び立たせていく。実話をもとにした長編映画。



### 9月の上映 「せかいいちうつくしいボクの村」(17分)

日時▶ 9月2日～9月30日の土・日・祝日、午後1時～

解説▶ 春には木々に花がいっぱい咲き、夏にはすももやさくらんぼが豊かに実る小さな村「バグマン」。少年「ヤモ」は、この村で、戦争に行った兄の帰りを待ちながら、家族と仲良く暮らしていた。美しい風景と人々の温かな笑顔にあふれたバグマンの村。しかし、その後、戦争により破壊されたこの村は、今はもう存在していない。原作は、絵本作家、小林豊さん。

※ 都合により、上映作品・期間等を変更することがあります。

## ▽今後の行事予定△

6,7  
月

- **高松空襲展**

期 日 令和5年6月24日(土)～7月5日(水)  
場 所 たかまつミライエ5階 平和記念館  
内 容 高松空襲の被災写真・絵画・資料パネルを展示

7  
月

- **高松市戦争遺品展**

期 日 令和5年7月13日(木)～7月19日(水)  
場 所 瓦町 FLAG2階 コンコース  
内 容 高松空襲と戦争に関する写真・パネル・資料を展示

8  
月

- **原爆パネル展**

期 日 令和5年8月3日(木)～8月9日(水)  
場 所 瓦町 FLAG8階 IKŌDE 瓦町展示コーナー  
内 容 原爆関連資料を展示

- **教職員のための平和教育講演会**

期 日 令和5年8月4日(金)  
場 所 たかまつミライエ 会場については未定  
内 容 講演(内容未定)と「平和学習」の説明

- **高松市戦争遺品等収蔵品巡回展**

期 日 未定  
場 所 未定  
内 容 市民の皆様から寄贈された戦争遺品を中心に展示

※ 都合により、開催を中止・延期することがあります。



召集令状により軍隊に入隊するとき、日の丸の旗に、家族や親族、地域の人や職場の同僚が武運長久や必勝を祈って寄せ書きをしたもの。

寄贈者の父は、1939(昭和14)年1月に召集され中国に出征した。香川県の職員であったため、署名の中には当時の知事の藤岡長敏さんの名前がある。復員後は出征中のことを語ることはなかったが、酒席で酔ったときや高熱でうなされたときに、戦地での体験の記憶がよみがえっていたようである。



平和記念館「最近の寄贈品」コーナーに展示予定

## 赤紙(臨時召集令状)

【読み】あかがみ

【分類】戦時中の制度

1927(昭和2)年の「兵役法」により、20歳以上の男子が徴兵検査の対象となった。徴兵検査に合格した20歳から39歳までの男子の一部が抽選で選ばれ現役兵となり、残りは補充兵として内地に残った。補充兵を徴兵する際に使用されるのが臨時召集令状で、その用紙の色から赤紙と呼ばれた。

県庁所在地に設置された連隊区司令部から地元警察に命令が出て、駐在(警察)が各市町村に持参した。そこから役場の兵事係を通してその日のうちに本人に届けた。真夜中でも「召集令状を持ってまいりました。おめでとうございます」という決まり文句とともに渡した。受け取り拒否は許されなかった。

参考：「資料が語る戦時下の暮らし」  
羽島知之 編著 麻布プロデュース

## 編集メモ

「憲法記念平和映画祭」で「太陽の子」を上映しました。改めて、戦争では決して未来を作れない、戦争は悲劇しか生まない、ということを実感した物語でした。柳楽優弥さん、有村架純さん、三浦春馬さんら人気の俳優が出演していることもあり、ポスターやチラシをご覧になった大勢の方から問い合わせがありました。申込が殺到し、短期間で入場定員に達したため、鑑賞のご希望に添えなかった皆様、申し訳ありませんでした。



たかまつミライエ

### 高松市平和記念館 (たかまつミライエ 5階)

開館時間：午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)

休館日：火曜日 (祝日の場合は翌日)、年末年始12/29~1/3

入館料：無料

▼ホームページアドレス (平和啓発の推進事業がご覧いただけます) ▲QRコード

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/keihatsu/heiwa/index.html>

